

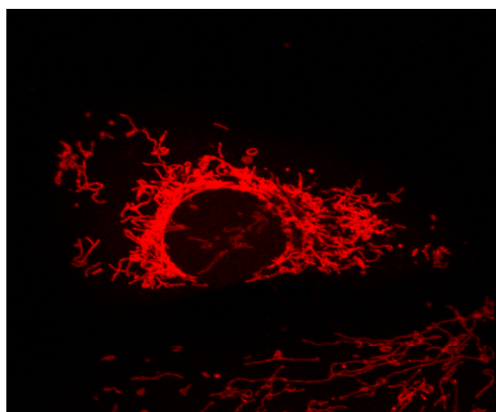
診断・治療のため、疾患の発症機序を 分子・細胞レベルで構成的に理解する

代表的研究テーマ

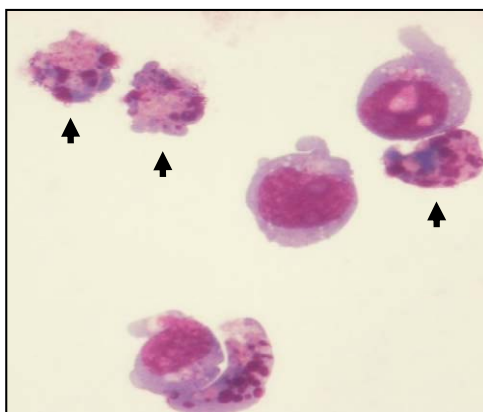
- ポルフィリンによる新たながん治療法の基礎的な研究（小淵）
- ミトコンドリア新生の機構解析と制御に関する研究（小淵）
- 難治性疾患の病態生化学では動脈硬化、抗リン脂質抗体症候群の病態生化学を研究する。（産学官連携センター教授 松浦）
- 分子イメージングによる動脈硬化・がんの新規標的医療技術の開発に関する研究をする。（産学官連携センター教授 松浦）

ミトコンドリアは、エネルギーを生産するための細胞内小器官としてよく知られています。しかし、最近になって、アポトーシスの制御、カルシウム貯蔵、ヘム合成、活性酸素や熱の発生など生命の維持に関わる重要な機能を兼ね備えていることがわかってきました。現在では、ミトコンドリアは多くの疾患に直接あるいは間接的に関わると認識されています。そこで、ミトコンドリア機能の構成的な理解とその制御方法を確立することによって、様々な疾患の病態解明と治療法の開発を目指しています。（小淵）

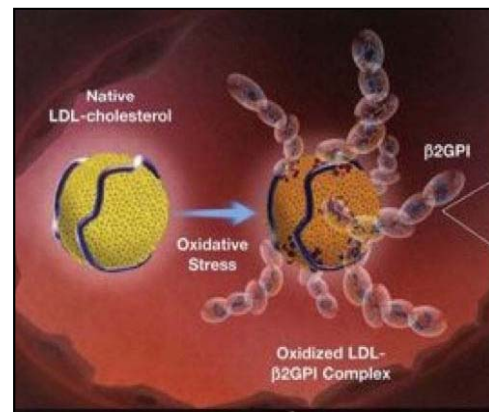
動脈硬化は、脂質代謝異常によって惹起するが、血管局所の炎症反応（免疫反応）で、長年にわたって無症候的に進展する。悪玉コレステロールと呼ばれる動脈硬化の本体は、動脈壁の炎症反応で酸化変性を受けたLDL（酸化LDL）であり、それはβ2-グリコプロテインIやCRPと呼ばれる血漿タンパク質との複合体として動脈硬化巣に存在すると共に、一部、血流中に逸脱する。本研究グループは、血液中、動脈硬化巣に存在する当該複合体の病態生理的意義を解明するとともに診断法を確立することを目標としている。その他、抗体によるがんの標的医療の研究も行っている。（産学官連携センター教授 松浦）



細胞内のミトコンドリア
(MitoTracker Red 染色)



HL60 細胞のアポトーシス
(May-Giemsa 染色)



新規動脈硬化マーカー

連絡先/岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 病態機構学講座 細胞化学分野

〒700-8558 岡山市北区鹿田町 2-5-1 総合教育研究棟 4階

Phone: 086-235-7402 Fax: 086-235-7404

E-mail: eijimatu@md.okayama-u.ac.jp (松浦), hkobuchi@md.okayama-u.ac.jp (小淵)

URL: <http://www.okayama-u.ac.jp/user/med/cellchem/index.html>